

幾代会 観 察 会(2021年11月)の ま と め

- ◆日 時 2021. 11. 14 (日)
- ◆散策場所 奥多摩町白丸
- ◆ポイント 元栖神社のイチョウと草木沢のシラカシ
- ◆散策ルート 白丸駅～不拔の森～元栖神社～本源院～お昼～大沢邸～杉入観音堂～
数馬の切通～数馬狭橋～草木沢のシラカシ～白丸駅
- ◆参加者 浅井さん、土方さん、太田さん、中部さん、須崎さん、宇津木さん、
石川さん、羽深さんと越前の9名：下見10月29日3名

散 策 路 ルー ト マ ッ プ



◆感 想

11月は最後の白丸駅で聞いた参加者の感想を載せます。

中部さん；白丸は初めてのコースで良かった。

羽深さん；色々と案内して貰って楽しかった。

須崎さん；初めてで山も綺麗で爽やかで良かった。

太田さん；人がいなく密に成らず高尾とは大違いで良かった。

浅井さん；人が行かない場所で素朴でリフレッシュできた。

宇津木さん；久しぶりに来たがこのシーズに来るのは珍しい。

教わったことを奥多摩のガイドに宣伝したい。

石川さん；久しぶりに山を歩いて天気も良く最高だった。

越前　　：下見の時より紅葉が進み3組もの地元の方と触れ合えて面白かった。

参加者が各自でマップを準備したり図鑑を持参したりで素晴らしいと思った。

◆11月の植物観察会のポイント3点

●半寄生植物のコシオガマ



自分自身が生きていくために必要な最低限の養分は、葉緑素を利用して光合成で作りますが、寄生根から水や養分を吸い上げつつ成長します。

寄生された植物に大きな悪影響を及ぼさないような生態バランスを保ち、うまく共生していく植物が半寄生植物です。

半寄生植物は根の側面をふくらませ側生吸器を形成します。

側生吸器が形成されても寄生植物の根は先端成長を止めず、さらに伸長を続けるため、半寄生植物ではひとつの根にいくつもの吸器が形成されます。

植物は種類によって様々な生活形態を示し、いずれも、それぞれの種ごとに進化の過程で生育環境への適応戦略として、生存・繁殖に都合の良い生活形態を作り上げてきたものと考えられます。

幾代会では去年の8月に訪れた日野の黒川清流公園で半寄生植物のヤドリギを観察している90歳の素晴らしい男性に会いました。

●ケヤキ実の風散布

ケヤキは下から見上げても見失うほど小さな沢山の緑の実が付いています。

種子には翼がないので、遠くまで飛ぶことが出来ません。

そこで実が熟すと、葉がついたまま枝ごと折れて飛びます。

枯れた葉のついた枝にくっついた種子は、枝ごとクルクルと回転しながら落下します。

横風を受けると、風に乗って数十メートルも離れた場所に運ばれることも有ります。

ケヤキは花粉も風で飛ばします。

こうした風に繁殖を手助けしてもらう種は、ケヤキのように樹高が高い方が有利です。

これまで幾代会では羽村橋のケヤキ幹周5.5m樹高23m。

立川八幡神社幹周6m、樹高10m、樹齢760年。

昭和記念公園のみんなの原っぱの伸び伸びした大ケヤキを観察しています。



●イチョウの進化

イチョウから垂れ下がっている突起物は乳で雄株でも雌株でも古木に成ると出る木があります。

垂乳根のイチョウとか乳イチョウと言われ願掛けして信仰の対象にされますが根でも枝でもない「担根体」でシダ植物が持っている機関です。

イチョウの乳は根に成ったり枝に成ったりするので担根体の名残ではないかと言われているが結論は出ていません。

「気根である」と書いた本もありますが乳は枝にも成れる構造なので根ではない。

又、2018年6月に幾代会では小石川植物園の精子発見のイチョウを観察しています。

幹回り4.9m樹齢300年（年輪抽出）

裸子植物は精細胞を作りシダ植物は精子を作ります。

イチョウやソテツは裸子植物ですが花粉管内に運動能力のある精子があることを1896年に平瀬作五郎が発見しました。

この発見で裸子植物はシダ植物が進化して生まれたことが分かりました。

このようにイチョウは垂れ下がった突起物からも精子からもシダ植物が進化したことが解ります。

◆散策路の植物アレコレ



東京で乗降客が一番少ない白丸駅に参加者9名が下車し、まずはトイレを済ませ、そそり立つ山と川の駅前でご挨拶とコース及び奥多摩町や白丸の説明。

線路を超えて右側の坂道をグングン登りヤマゼリ、シュウカイドウ、リンドウを観察。

石垣にびっしりとヒメツルソバ。

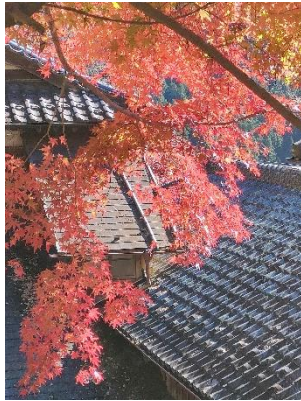
白い花を咲かせるツルソバより小型なのでヒメツルソバ。

花はピンクから白に変化する。

チョット満員の電車から降りた解放感で足取りも軽くおしゃべりも弾んで坂道を登ると右側の崖にシオガマの花。

お得意の「これな～～んだ」太田さんから「シオガマに似ている」

素晴らしいですね。ポイントで書いた半寄生植物の説明。



同じ山側の崖に咲くヤクシソウ。

ヤクシソウの茎葉は基部が張り出して茎を抱きます。

花期は9-11月でそろそろ終わりがけ。

枝の上部に直径1.5cmほどの黄色い花が固まって咲いていました。

花は上向きに開きますが、花が終わると下向きになります。

和名の由来は不明であるとする説や、葉の形が薬師如来の光背に似ているとする説、又かつて薬草（民間薬として皮膚の腫れものに外用）に使われたことによる説がありますが、私はもっ

ぱら光背を説明。

左側の草木沢沿いの崖には何本もの立派なクスノキが生えていた。

先月はあきる野市で戸田家のクスノキを前に「巨樹・巨木林調査」の結果から幹周のトップ10を説明し10本のうち、8本はクスノキです。さらに、11位、12位ともにクスノキで、その後もクスノキが多く登場します。巨樹ランキング1位の「蒲生の大楠」は、推定樹齢1500年、幹周が4mもあると説明し直径がどれくらいに成るかを10月の観察会で調べてみました。

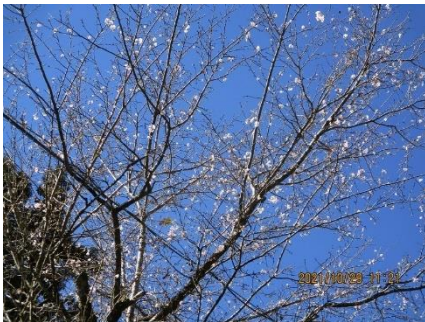
しばらく歩くと黄色く紅葉した元栖神社のイチョウが目飛び込んできた。

青空に映えて敷き詰めた絨毯と共に丁度見ごろです。

須崎さんからポッキーのおやつを貰ってベンチで小休止。

イチョウとケヤキの幹回りを持参したお手製のメジャーであてっこしながら童心に返って測定し大いに盛り上がった。

イチョウの幹回り4.4mケヤキは2.4m。神社の脇の階段を登った民家には2本の十月桜が青空をバックにそそと咲く。



本源院の境内の石垣に腰を下ろして「お腹がすいた～～」と嬉しいランチタイム。



食後は幾代会の梅まつりガイドや富士見公園の樹木調べの連絡事項を説明。

白丸湖を眺め下せる場所まで登ると地元の方からキューイと柿をとっても良いとの嬉しいサプライズ。

全員で大喜びして夢中でもぎ取りました。思いもかけない嬉しいお土産ができました。これからは対岸の山を見ながらの下り道。奥多摩ガイドの宇津木さんに「あそこが奥多摩

摩霊園」と説明して貰いました。

玉堂が逗留していた村長さんの大沢邸を外から見学。川合玉堂は明治から昭和にかけて活躍した日本画家。太平洋戦争末期の昭和19年(1944)7月、かねてより頻繁に写生に訪れて



いた御岳(東京都下西多摩郡三田村御岳)に疎開、更に12月には古里(古里村白丸)に転じました。石畳の下りではホトトギス、アメリカセンダングサ、ビナンカズラの赤い実、紅葉したブルーベリーを観察。今日、観察したセンダングサはコシロノとコトアメリカの3種でした。

ここで白丸駅に行き、トイレに立ち寄りしました。土方さんは足がチョット痛いし、明日の仕事が心配



なのでと帰路となりました。

待っていますから来月も懲りずに来てくださいね。

元の杉入りの道に戻り、正面にそそり立つ天地山を眺望し玉堂気分になりました。

石垣には紅葉した多肉植物のニジノタマやヒモサボテンがモリモリと元気でした。

更に下って奥多摩町の史跡の数馬の切通しや数馬隧道を見学。

切通しではエノキ、トチノキ。



野草は石川さんが喜んだサラシナショウマ、コウヤボウキ、蛇の頭のような孢子葉をもたげ、びっしりと生えたマメヅタ。
小さな滝でイワタバコやシンミズヒキを観察。



数馬狭橋でフレンドリーなノルウェー人にスマホで記念撮影をパシャと写してもらえました。

ノルウェー語でありがとうは「タック」と教わりました。「タック」「タック」です。

青梅街道を東に進み11月最後の観察種、草木沢のシラカシを見学。奥多摩ガイドの宇津木さんも見たことが無いマイナーな巨樹です。



でも多摩川にせり出した岩にどっしりと根を張り、うねるように枝を広げてナカナカ迫力が有ります。

此处でも紐を出して知恵を出して断崖にそびえるシラカシの幹回りの測定。

幹回り3、9m、向かって左の枝が3mで右が1、9m。

日原の森林館の高橋様に伺ったら、山里歩き絵図はデザイナーに頼んで作成して貰い、

デザイナーが調べてシラカシを入れたので奥多摩町では余り知られていない、とのことでした。

奥多摩町は巨樹と清流をキャッチフレーズにしているが特別なことはしていないそうです。シラカシは暖地性の木で西多摩に太いものは無いとのことですが幹回りが4m近いので、かなり太いですね。

これからは一路、乗車駅の白丸を目ざして坂と階段を休み休み登ります。

民家ではシロヤマブキの黒い実、ヒマラヤユキノシタはピンクの花を咲かせていました。



駅のプランターにはジャノメギクが。

ジャノメとは同心円の模様で蛇の目からきている。

蛇はまぶたが無く目を開けて寝るそうですが、何か関係が有るのかな～～利き酒のお猪口は白地に青の同心円のジャノメ模様です。

白丸駅で参加者から一言ずつ今日の感想を聞きました。

ほどなく登りの電車がトンネルを抜けて到着。

山道を良く登り良く降りて青空に映えた紅葉を万傑！今日も一日、お疲れさまでした～～
来月は奥多摩の川井を散策します。

越前記